

OCHIS 両輪会開催

居眠り運転の背景探る

ヘルスケアネットを開催した。

ワーク(OCHIS)は18日、トラック総合会館(大阪市城東区)で「急増する居眠り運転事故の背景を探る」事例による事故原因の究明と対応法」をテーマに、第16回安全と健康を推進する協議会(両輪会、大ト協・近畿共済・安全運行サポート会協賛)を開催した。



クリーニング検査の実績は、平成25年度の倍となる1万5000件を上回る申し込み。大きな事故が背景にあったことや全国の事業者に認知をいたしたいことが大きい」とした。また、「居眠り運転が全国で続出している。現場目線で一歩踏み込んだ議論をしていただくことで、居眠り運転の背景が見えてくるのではないかと、テ

クリニング検査の実績は、平成25年度の倍となる1万5000件を上回る申し込み。大きな事故が背景にあったことや全国の事業者に認知をいたしたいことが大きい」とした。また、「居眠り運転が全国で続出している。現場目線で一歩踏み込んだ議論をしていただくことで、居眠り運転の背景が見えてくるのではないかと、テ

マ設定の経緯を説明した。社内で行うSAS対策のQ&Aについて作本副理事長が解説した後、梅田運輸倉庫(同福島区)安全管理部の岸本恵知課長が、ドライブレコー

続いて小グループに分かれ、居眠り運転事故の会社の対応などについてディスカッションを行った。2日連続で居眠り事故を起こしたドライバーの事例が紹介されたほか、事故

対策については「停車時はサイドブレーキを引く」「安全装置の活用」「ドライバーの拘束時間の短縮」などの意見が出された。OCHISが企画する「健康管理で事故防止ポスター」の10枚目となる「違法薬物の注意喚起について」をOCHIS保健師の黒田悦子氏が説明。平成26年度危険ドラッグに係る検挙状況や違法薬物防止の取り組みを紹介した。なお、両輪会終了後には情報交流会が開催された。

(木村麻理奈)